

R35GT-R(2010 年式 / 中期型以降) 専用 リアビューカメラ取付ブラケット取付説明書

- この度はサウンドプロオリジナル「リアビューカメラ取付ブラケット」をお求めいただき有難うございます。
- 当製品を安全に取り付け・ご使用いただくために、当書の記載事項をよくお読みください。
- 取り付け後は必要時に参照できるよう、必ず保管をお願いします。

内容物一覧



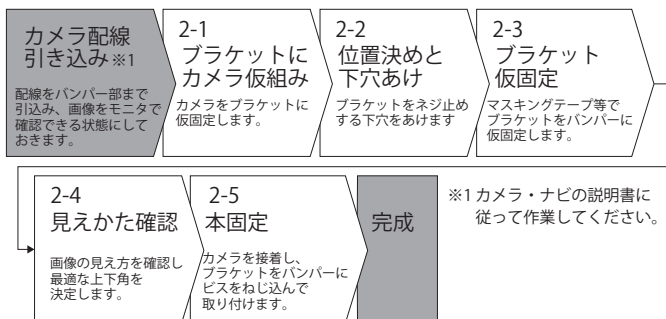
適合カメラ情報（カメラは別途ご購入ください）

ご確認 前に必ず	取付可能最大サイズ	取付可能主要メーカーサイズ		
		ALPINE	HCE-C1000	23.6×23.6×24.0
		carrozzeria	ND-BC8	23.8×23.8×25.5
		Clarion	RC15C	23.4×23.4×23.5
		KENWOOD	CMOS-230	23.4×23.4×23.9
		Panasonic	CY-RC100KD	23.0×23.0×23.0

1 作業開始前の確認事項

- 本説明書の写真やイラストは、撮影・印刷条件により、実物と異なって見える場合があります。
- 着事前に本書をよく読み、一連の作業を理解してから着手してください。次ページの1-1と1-2の事項もお読みいただき、十分に安全にご留意頂いた上で着手してください。不安がある場合は専門店にご依頼ください。
- ブラケット取り付け自体は比較的短時間で完了しますが、ケーブル引き込み等を関連作業を含めると、相応の時間がかかります。屋外で作業する場合は、明るいうちに終了できるように余裕を持って計画してください。
- カメラのサイズによっては組み込めない場合があります。事前にカメラのサイズをご確認ください。
- 本製品の仕様及び外観は、改良のために予告なく変更する場合があります。

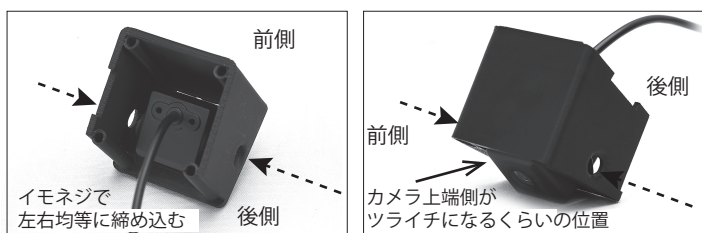
2 取付作業のながれ



2-1 ブラケットにカメラを仮組み

カメラをブラケットの開口部にあてがって、付属のイモネジで固定します。付属の六角レンチを使い、左右均等に締め込んでください。

ネジ穴は本固定の際にしっかり締まるように、キツめにしてあります。力を入れてすぎて締め過ぎたり、斜めに入れたりしてネジ穴を破損しないように注意してください。本締めは後ほど行いますので、この段階ではカメラが動かない程度で、軽めに締めておいてください。



1-1 安全に作業・ご使用いただくためにお守りください

- 本製品の取り付けには、関連する部分の自動車の構造に関する知識が必要です。また関連作業を含めると、電気配線の知識・技術・工具類も必要になります。不安・不足がある場合は無理をせず、専門店にご依頼ください。
- 取り付け・ご使用前に、この取付明書をよくお読みいただき、正しく作業してください。説明書の指示をお守りいただかなかった事により生じた不具合、並びに損失に対して、当店は一切の責任を負えません。
- 当初お読みになった後も、必要時に参照できるよう保存してください。

1-2 配線・取付・取扱・ご使用上に関する警告・注意（関連作業を含む）

- 説明書に従って、正しく接続してください。車両火災・事故の原因になることがあります。
- 配線作業の前にはバッテリーのマイナス端子からアース線を外してください。感電・ケガの原因になります。
- ネジなどの小物類は、幼児の手の届かないところに保管してください。飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。
- 車体に穴を開ける場合には、パイプ・タンク・電気配線などを傷つけないでください。事故・火災の原因になります。
- ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴグル等を使用して目に切り子や破片が入らないように保護してください。ケガの原因になります。
- アース接続には、ハンドル・ブレーキ・タンクなどのボルトやナットを使わないでください。制動不能・火災の原因になります。
- コード類は運転操作の妨げとならないように束ねてください。ハンドル・変速レバー・ブレーキペダルなどに巻き付くと、事故・故障の原因になります。
- コードをシートレールにはさんだり、突起部に当てたりしないでください。断線やショートにより、感電・火災の原因になります。
- 走行前にカメラステーの取付状態に異常がないか点検してください。事故の原因になります。
- カメラの取付け作業を行うとき、カメラの取付け状態を点検するときは、車を平場で安全なところに停めて必ずエンジンを切り、サイドブレーキを確実に引いた状態で行ってください。事故の原因になります。
- 付属部品を指定通りに使い、しっかりと取り付けてください。事故・故障の原因になります。
- コード類の配線は高温部・可動部を避けて行い、しっかりと固定してください。高温部に接触してコードの被覆がとけたり、可動部品による咬み込みによりショートや断線が起こり火災・感電の原因になります。
- カメラ本体は、車幅・車の前後からはみ出ない場所に取付けてください。歩行者などに接触して、事故・ケガの原因になります。
- カメラ向きのズレ、ステア破損の原因になりますので、ステアに無理な力を加えないでください。
- カメラ破損の原因になりますので、飛び石等にはご注意ください。
- 自動洗車機や高圧洗車時はご注意ください。カメラ外れやカメラコード損傷の原因になります。また、カメラ内部や車体内に水が入り込む恐れがあります。
- 定期的に取付状態を点検してください。ねじのゆるみや、カメラのグラつきを確認してください。コードを車内へ引き込んでいる箇所の防水ゴムがゴムパッキンに平行にあたっていることを確認してください。

2-2 位置決めと下穴あけ

①取り付け位置を確認する

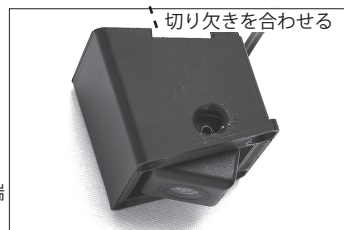
トランクオープナーと右側ライセンスランプの間にブラケットをあてがいます。写真では作業部位が分かりやすいようにアッシーごと取り外していますが、車両に取り付けたままで取付可能です。（ナビ本体からの配線引き出しは、巻末の[3. 参考資料]を参考に各自行って下さい。）



ブラケット右脇の切り欠きがランプの取付部の出っ張りにぴったり合うように設計してあります。

②ビスねじ込み用の小穴をあける

位置を確認できたら、4つのネジ穴から千枚通しを突き刺す等して、ビスの先端をねじ込むための小穴を開けて下さい。



2-3 ブラケット仮固定

付属のビスを使って、ブラケットを仮固定します。ねじ込み深さは6～8ミリ程度です。電動ドライバーは使わずに手回しでゆっくり慎重にねじ込んで下さい。ネジの寸法は、奥が35ミリ・手前が45ミリです。ネジはブラケットがぐらつかない程度に締め込みます。（本締めはカメラを接着固定してから行います）

2-4 見えかた確認

運転席に戻り、モニターを見て画像の見え方（上下の角度）を確認します。
イモネジの接点を支点として角度を調整し、ちょうどよいところが決まったら、
カメラの向きが変わらないようにマスキングテープなどで固定します。

2-5 本固定

①カメラとブラケットを固定する

ビスを抜いてブラケットをバンパーから外し、脇の穴からイモネジを締め込み
ます。

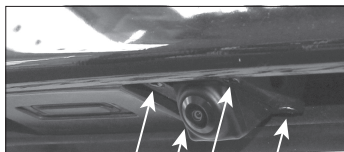
よりしっかりと固定するために、四辺の
すき間にエポキシ系接着剤を充填します。

四辺のすき間をエポキシ系
接着剤で埋める



②ブラケットをバンパーに固定する

接着剤が乾いたら、ブラケットを所定の
位置にあてがい、仮止めの際にあげた
穴をつかって本固定します。



手締めでゆっくり丁寧に



3 参考資料

トランク内から車外へカメラ配線を引き出すには、矢印の位置のグロメットを
通すのが妥当です。

写真ではバンパーを降ろしていますが、ディフューザーを外して、マフラー付近から
手を入れれば、降ろさなくてもアクセス可能です。

ただし、配線経路を全て目視しながら作業できるわけではないので、固定忘れに
よるマフラーへの接触や、通したつもりのところに通っておらずにタレてくると
いった勘違いのリスクはご認識ください。



製造・販売元

オーディオファクトリー・サウンドプロ

〒116-0012 東京都荒川区東尾久 2-38-14

TEL：03-5913-8450 / FAX：03-5913-8460

<https://www.soundpro.jp> info@soundpro.jp